

バリ島における2つの認知的 DMILS*研究（エッジ、故モリスら、JP2004、PA2003、BIAL）

*遠くの生体に精神的影響を与える PSI 実験、今回は人間の認知機構を対象にしている。

要旨： 標記研究を、前近代化文化において統制実験が成功するかという観点で行なった。実験課題は、他者の瞑想集中を PSI によって助けられるか、である。第1研究では訓練の効果を見るために、参加者の半数についてロウソク瞑想を訓練した。全体として、ヘルプ期間はコントロール期間よりも、集中が切れた報告のボタン押しが2%有意で少なかった。ヘルパーが瞑想訓練者で、ヘルピー（助けられる人）が未訓練でかつ気が散りやすい場合、もっとも顕著な差異が得られた。そこで第2研究では、この条件のみに注目して実験したところ、再度2%有意となった。前近代化文化においても、その文化にそった超心理実験を企画すればうまくいくことが示された。

(p289)

前近代化文化においては、多数の超心理現象が報告されている。

そのほとんどは疑わしいものであるとされる。【懐疑論者の論文を引用して牽制】

そうした文化圏で、強力な超心理現象が起きているかどうかを調べることに、6点の意義が見出せる。【前近代化文化圏での実験であることの意義を強調】

(p290)

そうした文化圏での統制実験は難しく、これまで3件報告があるのみで、結果も揺れている。ガイスラーは文化にそった統制実験の必要性を指摘している。【文化を尊重した統制実験に挑戦することの意義を強調】

(p291)

バリ島が統制実験にふさわしいことを3点あげる。【バリ島を選んだ正当性を、著者らの過去の研究成果をあげながら主張】

上記経験にもとづいて今回は DMILS 研究を行なった。【研究が具体化した経緯】

DMILS 研究は、これまで植物や小動物に対して行なわれてきた（PKに近い）が、今回は人間に対して精神的相互作用を行なう（テレパシーに近い）。【DMILS 研究のレビュー】

(p292)

ブラウドラが認知機構への DMILS 研究を始め、瞑想を助けるという実験企画を確立した。これまでに6つの同様な実験が行なわれている。今回は、瞑想訓練の効果に注目しながらバリにおける実験を企画した。【同様な実験の実績を示して正当化、同時に独自の差異化】

<第1の研究>

実験企画：ヘルパーは16分間のうちランダムな8分間にヘルピーを助ける瞑想をする。ヘルピーは16分間連続にロウソク瞑想をするが、気が散ったらその都度ボタンを押す。この1ランが終了したら、どの程度成功したと思うか（質問票1）に回答する。【成功したと思うときに実際成功している傾向がある】 また各自、どの程度気が散りやすいか（質

問票 2) に事前に回答しておく。【回答時期によるバイアス問題に配慮】→文面付録

(p293)

参加者：40人で、半数は3ヶ月の瞑想訓練をする。【どのように参加者を集めたか明記】
瞑想訓練：毎土曜日の昼休みにロウソク瞑想を教示。毎日自宅で練習するように指示。

(p294)

実施：2001年1月7-10日、サヌールのバリビーチホテル5階

配置：図の通り【懐疑論者からごまかしの可能性の指摘があるので回避する狙い】

コンピュータの設置、画面表示【ランダム制御法などプログラム言語や作者まで記述】

(p296)

質問票：訓練中の自宅練習をしたか。実験中の質問票1、および質問票2（こちらの気が散りやすさ尺度は、助けの必要性を推し測る意図がある）【実績がある質問票と明記】

実験手順：4人（訓練者2人と未訓練者2人）が1チームで、10チーム構成。まず4人を連れてきて、ヘルパーとヘルピーの役割を教示する（→文面付録）。各人、ヘルパーとヘルピーを各1回で、4ランを行なう（p297の表）。ヘルパーとヘルピーを各部屋に誘導し実施。【この具体的手順と、実験者の誰が担当したかを明記。懐疑論者への対抗】

4チーム、4チーム、2チームと、3日間実施。

(p298)

分析の事前計画：【検定の正当性保持のため、仮説は事前設定されてなくてはならない】

- (1) ヘルプ期間はコントロール期間にくらべ、気が散るのが（ボタン押しが）少ない。
- (2) 助けを必要とする人はPSI効果を、ヘルピー時に示しやすく、ヘルパー時に示しにくい。
- (3) p297の表にある4通りの条件で差異があるかどうか。

(p299)

<結果> 【除外データ、分析法の原典について明記】

- (1) ボタン押し回数の期間別t検定が2%有意、効果サイズ0.35。
- (2) 助けを必要とする人はヘルピー時にボタン押しが多く有意。ヘルパー時は検出なし。
- (3) 分散分析：(a) コントロール期間にヘルパーが未訓練者の場合、未訓練者ヘルピーは訓練者ヘルピーに比べて有意にボタン押しが多い。(b) ヘルプ期間にヘルパーが訓練者の場合、未訓練者ヘルピーと訓練者ヘルピーの差異は、効果サイズ大0.42。(ns)

(p301)

<議論>

1. 強力なPSI効果が検出された。実験企画はバリ島などの文化に最適。効果サイズは、他の研究に比べて大きい。訓練には予想ほどの大きな寄与はなかった。そもそもボタン押しが少なかったため、バリ島民はもともと瞑想の下地があったのかもしれない。

(p303)

2. 一連の研究は、助けの必要性がPSIを誘発している点で、PMIRの理論に適合する。
3. ヘルパーが訓練者で、ヘルピーが未訓練で助けを必要とする場合に顕著な差異が得られたが、統計的に有意とまでいかなかった。→そこで第2研究へ (終)